ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第85回放送の概要（2014年8月30日放送）

パーソナリティ
さくら（安本久美子）
タロウ（佃　由晃）
なか（中嶋邦弘）
あな（岸本幸恵）

コアラさんの地域瓦版
かりん（妹尾優香）

ミキサー
門ちゃん（門田成延）

相談役
わだかん（和田幹司）

会計
小山俊則

（CM）尼崎で配電用部品を製造している、「オーテック」という会社ですが、そのかたわら、２種類の米焼酎、「ダンディーズスマイル」と「親父のほほえみ」を販売しています。水割りでおいしく、お米のまろやかさを感じられる米焼酎です。身体を酸化させる原因となる活性酸素を、減少させ、老化予防、美容に有効な「水素水」の販売も行っています。
本日は、尼崎市のオーテック様（電話０６－６４８９－１３１４）の御協力を頂きました。

（CM）世界網膜の日 in 兵庫～研究助成発表＆医療講演会～
2014 年９月 21 日（日）　10 時～16 時 30 分　　神戸ポートピアホテル
高橋政代先生による記念講演「ips 細胞の網膜変性疾患への応用」

1．オープニング

本日はさくらさん、なかちゃんお休みですが、今回よりあなちゃんが放送スタッフとして参加します。

2．ゲストコーナ（1）：アジア女性自立プロジェクト　有吉真紀さん

有吉さんは、明石高校美術科、岡山県立大学デザイン学部工芸工業デザイン学科テキスタイルデザインコースを卒業。絵を描いたりものを作るのが好きで、中学では陸上をしながら絵を描いていた。大学では布が好きなのでテキスタイルデザインを学んだ。先生がアートの先生で、考え方、技法を学んだ。就職を考える時、作るより作ったものを売るほうが好きと気付いた。元々エスニック雑貨が好きということもあり、大学時代２年間アジア民族雑貨店でバイトをしていた。

卒業後、雑貨店でアルバイトをしていた時、神戸でフェアトレードの専門店がオープンし、ボランティアを募集しているという新聞記事を見た。当時はフェアトレードの意味を知らなかったが、バイト先と近かったので休みの日にボランティアに行った（1998 年）。「ぐらするーつ」という店で、今は神戸店は閉店し東京の渋谷店のみであるが、フェアトレード商品を扱う専門店であった。フェアトレードは公正な貿易と訳すが、一方的支援ではなく貿易を通して、作る人と対等な立場で製品を継続して購入し、販売することで、生産者の自立に繋げることを目的としている。「ぐらするーつ」では、ボランティア、アルバイトから店長になったが、閉店になったので３年間勤めた仕事をやめた。その後、結婚し子育てをしていた時に AWEP のスタッフから、「家にいるのが退屈になった頃と思うので、子連れでよいから仕事をしないか？」と誘われ、パートで働くようになった。しかし子供が大きくなり、仕事がしにくく

なった時点で一旦退職。「ぐらするーつ」時代の知り合いから声がかかり、子育てをしながら神戸と伊丹空港の期間限定の店に勤めたりした。子供が小学校に上がる頃に AWEP に復帰した（2010 年）。

子育てをする中で国際協力だけでなく、子育て支援などの活動に興味が出てきたので、新長田の子育て支援 NPO 法人ウィズネーチャーに出入りするようになった。新長田は横山光輝さんの漫画「鉄人 28 号」や「三国志」で商店街の活性化に取り組んでおり、ウィズネイチャーが、商店街の店主から、三国志は大人向け、マニア向けのものはあるが子ども向けに街を知ってもらうものがほしいと言われていたので、ウィズネーチャーに出入りしていた三国志の好きなママに声がかかり「こども三国志プロジェクト」を作った。子どもの頃、ＮＨＫＴＶで放送していた三国志の人形劇が好きだったことが、三国志の活動にかかわるきっかけになった。

グループは、はじめは４人とその子ども達であったが、今は３人とその子ども達が中心になっている。人形劇は手作りのパペット人形を使って上演している。リーダーが人形のデザインをし、脚本を書き、朗読にあわせてメンバーが人形を動かしている。新長田のまちづくりに貢献しながら自分たちも楽しんでいる。三国志を使って歴史に興味を持ってもらい、親子で一緒に見ることによって会話のきっかけになればと思い活動している。息子さんは人形劇に一緒に出て、人形を使ったり、幕間にドラを鳴らしたり、お客さんがドラを鳴らす時の手伝いをしたり、客席で人形劇を見たりしているので、参加しているときは有吉さんに対しダメだしをしているそうだ。漫画をしっかり読み込んでいるので、有吉さん以上に三国志を知っている。グループの子どもたちは小さい時から三国志を読み始めたので、漢字を覚えるきっかけになっている。先日の姫路文学館公演は、リーダーが出演できなかったので有吉さんが代役をしたところ、息子さんより「早口だ、登場人物の声が全員同じに聞こえた」などのダメだしをされた。

有吉さんは「人と人を繋ぐのが得意」と言っている。繋ぎ方のコツについては、有吉さん自身が繋がることが好きで、その人の話を聞くことでどのような人かを考え、この人とこの人を引き合わせると楽しいだろうというイメージがわくので、タイミングを計って繋いでいく。繋いだ後は当事者同士で活動してもらえばよいと思っているので、自分は手を引く。相手に対して年齢や立場に関係なくフラットに接しているので、話しているうちに仲良くなるのも繋ぐことに役立っているのではと感じているそうだ。

3．ミュージック：ダンケシェーン（ブレンダリー）

ブレンダリーは 1944 年ジョージア州アトランタ生まれ。5 歳の時にタレントコンテストで優勝。1956 年「ジャンバラヤ」でデビュー、「ダイナマイト」のタイトルからリトルミスダイナマイトと呼ばれた。60 年代に彼女よりヒットが多いのは、プレスリー、レイチャールズ、ビートルズのみ。

4．ゲストコーナ（2）

アジア女性自立プロジェクト(AWEP)ができたのは 1994 年８月です。エンタテナーなどの仕事で来日していたフィリピン女性が帰国することになった時、日本人との間に子どもが生まれていても父親の所在がわからなかったり、親権問題、国籍問題など様々な問題があったので、父親を探したりする活動や、女性たちがフィリピン国内で自立できるように、縫製の技術を学び製品を作る仕事づくりへの協力を現地の団体と協力してはじめたことではじまった。その出来上がった製品を販売することを始めたのが今の AWEP のフェアトレードに繋がった。はじめた当時は国内ではフェアトレードという言葉はあまり聴かれなかった。AWEP 活動の最初は輸入した製品をバザーなどで販売することであった。AWEP のこれまでの代表は稲田さん、森木さんである。

1995 年、阪神大震災時、在日外国人の女性たちからも助けてほしいと言う声が上がり、ここから在日外国人女性に対するサポートが始まった。当時の事務所はメンバーの自宅で、震災 2 年後に今までのつながりから声をかけていただき、たかとり教会に移った。

現在フェアトレード活動ではフィリピンの他、インドネシア、タイ、ネパールと繋がっている。インドネシアは、フィリピンでも手に入っていたバティックという伝統的技法で染められたろうけつ染めの布が手に入りにくくなってきたので、布を探しに行くことになり、知り合いからインドネシアのグループを紹介してもらったことから繋がり出来た。タイは、在住の日本人と元々繋がりがあり、その人が支援しているタイの製品の販売を依頼された。ネパールは、神戸在住だった人との繋がりからである。現在ネパールでは新しい団体とのフェアトレードの製品作りが始まっている。新しい団体は人身売買のサバイバーの女性のシェルターを運営している。インドに行き人身取引された女性を保護し、ネパールに連れ帰り、保護や自立訓練をしている団体である。AWEP の海外事業担当が学生時代に研究テーマとしており、彼女からネパールの団体を知った。その団体は AWEP と繋がる前はフェアトレードはしておらず、自立訓練の後は外の会社で働いたり、シェルター内で余暇としてアクセサリーを作っていた。団体内で自立のための製品づくりは行われていなかったので、AWEP は大阪発祥のさおり織の NPO が、海外から 1 ヶ月間研修生を受け入れ、さをり織の技術と理念を学び、帰国後はグループ作りをしてもらう活動を行っていることを知り、ネパールの団体から研修生を招くことで応募し、採用された。この活動は 2 年前に始まったばかりである。

フェアトレードで輸入する商品のデザインは、日本で売れるようそのほとんどを AWEP で考えている。現地の生産者が作った商品をそのまま輸入して販売していないのが AWEP のフェアトレードの特徴であり、プロのデザイナーがいない中で考えているのが苦労している点でもある。AWEP のスタッフは、月～金の業務対応として、有給スタッフは 5～6 人、週 1～3 日パートで働いている。有吉さんも週 3 日出勤である。その他に定期的に事務所にボランティアの方がきてくれて活動を手伝ってくれている。このような少人数で 4 カ国対応しているし、フェアトレード以外の活動もしているので海外に行く時間がなかなかとれないが、年に 1 回は現地に行くようにしている。以前に比べてスカイプ、無料電話などでコミュニケーションは取りやすくなっているが、やはり海外の生産者とはコミュニケーションをとるのが難しく、言ったことが忘れられていたり、伝わっていなかったり、できて間もないネパールのグループでは、作る人の収入がフェアトレード製品の生産だけでは十分ではないので、他の仕事についたり、シェルターなのでシェルターから卒業したりして作り手が入れ替わるので苦労している。

AWEP ではスタディツアーを、年 1～2 回企画し、AWEP の活動に興味を持っている一般の人に募集をかけ、現地に出向き、作っている人に会ったり、その国の様子を見てもらっている。現地に行って実際に見て感じることが理解の早道になる。参加者には、フェアトレードをしている人、女性問題（人身取引の被害、日本人と結婚し生まれた子どもの問題など）に感心のある人や学生などで、約 10 日間前後の日程でツアーを組んでいる。

各国の商品の 1 例を示します。**フィリピン**はペンホルダーで、織物のストライプの布で作られています。AWEP 活動の初期からある人気商品です。フィリピンは縫製技術が高く、縞模様はフィリピンの伝統です。**インドネシア**は手のひらサイズの小さな太鼓です。枠はマンゴーの木で、音を出す部分はヤギの皮を使っています。皮には白地に青色で亀がデザインされています。インドネシアはバティックというろうけつ染めで絵を描く伝統技法があり、布に描くのが有名ですがこの太鼓は皮にろうけつ染めで描いています。**タイ**は手のひらサイズの半円形のポーチで、素材は草木染の布を使い、布を作るところ、縫うところ、刺繍するところはそれぞれ別グループで行っています。山岳民族の人がクロスステッチの幾何学模様の刺繍をしています。この刺繍がタイの特徴です。**ネパール**はさをり織のショールとマフラーです。色は AWEP スタッフがネパールに行った時に現地の素材を一緒に選んで作ったもので、さをり織の特徴はきれいにきちんと織るのがいいのではなく、自由に好きな色で好きに織ることが特徴で、

このショールとマフラーもその特徴が出ています。

フィリピン：ペンホルダー

インドネシア：太鼓

タイ：ポーチ

ネパール：さをり織ショール、マフラー

AWEP は、９月 21 日（日）、14 時～19 時、神戸学生青年センターで 20 周年記念イベントを開催します。タイトルは「アジアの女性と手をつなぐーAWEP の 20 年とフェアトレード」です。２部構成になっていて、１部の中にはパネルディスカッションでフィリピンから生産者２名、名古屋フェアトレードショップ代表、京都のフェアトレードと会社を経営している方が出席されます。２部は交流会です。

９月 12 日→13 日にポートライナーのポートターミナル駅すぐの CAP CLUB Q２で開催される「ジャワ影絵芝居オールナイト」にインドネシアの製品販売で出展します。

詳細は　アジア女性自立プロジェクトの HP やブログ、Facebook ページをご覧ください。

****アジア女性自立プロジェクト*****
653-0052　神戸市長田区海運町 3-3-8
たかとりコミュニティセンター内
TEL/FAX 078-734-3633
e-mail awep@tcc117.org
HP http://www.tcc117.org/awep/
FB https://www.facebook.com/awepkobe
受付時間 月～金 11 時～16 時

5．なかちゃんコーナ：福島県原町高校来神

福島県南相馬市の原町高校から、放送部の１年生２人、先生１人が８月 10～12 日に来神。ＦＭわぃわぃのわれら学校放送部という番組で、須磨翔風高校と原町高校が繋がっていることから、阪神大震災後の復興を確認するため来神したもの。10 日は、人と防災未来センターに行き、阪神大震災の被

災状況を学び、11 日は午前中長田まちあるきをし、再開発ビルの状況と建物が残った隣接地域を確認。11 日午後はたかとり教会で原町高校と須磨翔風高校、兵庫高校放送部の生徒と交流会を行い、ＦＭわぃわぃの番組収録後、神戸復興塾 311 被災地支援報告会で震災体験を発表した。たかとり教会の震災体験発表では、原町高校の生徒さんが、生徒会長の言葉を朗読され、その内容がとてもいいと思ったので紹介します。

・・

2012 年度原高生徒会長が生徒会誌に投稿した文章

ー筆目　　ーこれからの原高ー

時々、あれが夢だったんじゃないかと思うことがある。仮設校舎で過ごしたこと。相馬高校に間借りしたこと。毎日バスで通ったこと。家族で避難したこと。別れた友達を想い涙したこと。亡くなった人に憐憫の情を抱いたこと。瓦礫で街が埋まったこと、あの地震が起きたことー。

ただ思い出したくないだけなのかもしれない。向き合うのが怖いだけなのかもしれない。
あの日から震災の報道は意識的に避けてきた。一瞬で変わった生活を受け入れ、それに順応出来るほど、私は大人ではなかった。それでも季節は廻った。時間は止まらなかった。

新生徒会が発足したとき、大きなキャンバスを受け取ったような気持だった。まだ何もデザインされていない真っ白なキャンバスに、「絵を描きなさい」と言われるようなその気持ち。そして私に求められたのは、可及的速やかに、これからの方向性を決めること。キャンバスに一筆目を入れることだった。可能性と言うのだろうか。「可能性」ーそれは本来ならば未来を展望させ、心踊らせる言葉だ。しかし取り組むべき何かを見つけられていない当時の私にとって、その「可能性」は「焦り」とイコールだった。確かに、これからどんな絵を描こうかという楽しみがなかった訳ではない。でもそれは逆に怖さでもあった。一筆目を入れてしまったらもうその絵のコンセプトを変えられない気がした。例えば、新緑を描こうと思って緑を入れてしまったら、もう青い海は描けない。それが怖くてなかなか筆を入れることが出来なかった。

そんな時、この 1 年間を振り返ってみた。今年度は、前年度以上に全国との関わりが深い一年だった。野球部、放送部、吹奏学部等がメディアに取り上げられ、原高の存在が一段と大きくなった。全国の人々には、私達は「可哀想」に映ったかもしれない。確かに本当はしなくてもいい経験をし、各々が程度の差こそあれ、そう容易には癒えない傷を負った。大切なものを失った。あの震災が残したことを知るのはもう少し先になるかも知れない。しかしいつも隣に友達がいて、笑ったりできる日常が、学校に通える環境が、家族で過ごす時間が、奇跡に満ち溢れ、かけがえのない幸せであることに気付くことができた。

私達新生徒会に求められたこと。それはいかにも生徒会らしい規則の遵守を公言すること、そんな容易なことではない。これからどう全国の方々に恩返しをしていくか。頂いた善意に対して、どういう形で感謝の意を示し、故郷の復興にどう携わっていくか。一度途絶えかけた原高の伝統を、どうやって今後に継承し、後世に伝えるべきか。原高全体の今後の課題として、一年間追いかけていきたい。そしてそのために、全校生徒の協力を頂けたらと思う。

私の目に、これからの原高の描く一筆目が、見えた気がした。

・・・

6．地域瓦版

おやこ三国志プロジェクトの公演が 10 月 12 日、13 日に新長田南側一帯で開催される三国志祭で行われます。詳細はおやこ三国志プロジェクトのブログ、Facebook ページをご覧ください。

*****おやこ三国志 PROJECT*****
ブログ　http://085sangokushi.blog75.fc2.com/
FB　https://www.facebook.com/oyakosangokushi

７．来週のゲスト

来月のゲストは、司法書士の村上明貴子さんにお越し頂きます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記ＵＲＬで視聴いただけます。
http://yukari.hyogo.jp/